

## フィリピン・ハイエン台風による高潮堆積物の調査を行いました(2014/5/7-12)

テーマ：台風ハイエン，高潮堆積物  
場所：フィリピン，レイテ島

平成25年11月8日にフィリピンに上陸した台風30号（ハイエン）により，レイテ島のタクロバン市周辺一帯は甚大な被害を受けました。特に，台風による高潮は，海岸付近で3～5mの高さとなって集落を襲い，被害を拡大させました。発災後から現在までに，災害科学国際研究所や他の研究機関などによって，多数の被害調査，復旧・復興に関する調査が実施されてきました。しかし，今回の高潮によって形成された堆積物についての現地調査は，ほとんど実施されてきませんでした。そこで，本調査では，平成26年5月7日から12日まで，タクロバン市の南のタナウン町とトロサ町で台風ハイエンによる高潮堆積物に焦点を当て調査を行いました。本調査には，災害科学国際研究所 災害リスク研究部門の後藤和久准教授と菅原大助助教，寄附研究部門のサッパシー・アナワット准教授，その他タクロバン市役所都市計画担当者が参加しました。

レイテ島では，歴史記録から，約100年前に今回と同規模の台風・高潮があったと考えられており，本調査では過去の高潮による堆積物の痕跡についても調査を行いました。その結果，海岸線から約200mまでの範囲で，今回の高潮によって形成された厚い砂の層が観察されました。また，過去の高潮堆積物の探索として坪掘り調査も行いましたが，これまでの海岸浸食の影響により，今回の調査では発見に至りませんでした。今後，台風ハイエンによる高潮堆積物と，他地域の高潮堆積物や東日本大震災など近年の津波堆積物との比較検討を行う予定です。それらの結果は，津波堆積物と高潮堆積物との識別方法の確立，堆積物を用いた過去の台風・高潮の規模や発生間隔の推定精度の向上につながると期待されます。

今回の調査後には，タナウン町の役場を訪問し，調査結果と防災計画に関して，都市計画担当者と町長への報告を行いました。さらに，国際連合人間居住計画（UN-HABITAT）都市計画担当者，タクロバン市役所都市計画担当者と今回の調査結果に関して議論を行いました。今後，今回の調査結果の詳細をレイテ島の各被災地の担当者に報告する予定です。

なお，今回の調査は災害科学関係人材育成助成金と災害科学国際研究所所長裁量経費の支援を受けて行われました。



台風ハイエンに伴う高潮で堆積した砂の層



調査メンバー

文責：後藤和久，菅原大助（災害リスク研究部門）  
サッパシー・アナワット（寄附研究部門部）